野田正人先生・山本耕平先生の定年ご退職にあたって

産業社会学部長・社会学研究科長　櫻井　純理

この度，野田正人教授および山本耕平教授の定年ご退職を迎えるにあたり，産業社会学部・社会学研究科を代表して，挨拶をさせていただきます。

野田先生は20年間，山本先生は13年間，産業社会学部・大学院社会学研究科での教育・研究指導とともに，本学人間科学研究科（野田先生）や人間科学研究所（山本先生）での教育・研究活動等を通じて立命館大学全体の教学発展に貢献され，多くの卒業生・修了生を社会に輩出してこられました。以下，それぞれの先生方のご経歴を簡単に紹介させていただきます。

野田正人先生は大学で社会福祉学を学ばれたのち，11年間，家庭裁判所調査官として家庭問題や非行問題に臨床的に関わられ，1989年から大学で教鞭をとられるようになりました。そして，本学部に着任されたのは2000年４月でした。翌2001年度に新設された人間福祉学科（現・人間福祉専攻）の創成期メンバーとして，社会福祉に関わる教学展開の骨格を形づくってこられた，まさに開拓者のお一人です。臨床心理士・学校心理士等の資格を有する専門家としての視点やご経験をふまえて，学部では「司法福祉論」「児童福祉論」「学校カウンセリング論」等の授業をご担当されました。社会学研究科でご指導いただいた博士号取得者は，大学教員やスクールソーシャルワーカーとして，社会で活躍しておられます。加えて，学部役職については，2001年度に社会福祉実習指導運営委員会委員長，2005年度に学生主事をお務めになられました。

研究面では，児童虐待，子どもの非行・いじめ・不登校，障害者の犯罪等をテーマに，一貫して福祉・教育・司法領域での支援のあり方を追究してこられました。家庭裁判所と児童相談所の機能に関わるご研究は「日本司法福祉学会」の設立に繋がり，初代の学会事務局長を務められました。また，児童自立支援施設の運営に関する第一人者として，厚生労働省の科学研究実施にも関わり，同施設運営指針や評価基準を策定する委員を歴任されました。児童虐待に関するご研究では，同省が2003年に開始した死亡事例検証の初代委員として，各地の重篤事例の分析を行ってこられています。さらに近年は，スクールカウンセラー（1995年～）やスクールソーシャルワーカー（2005年～）の効果的な活動と活用について研究され，文部科学省の両事業推進委員会の座長として指針を策定されました。

このように，野田先生は研究成果の社会的実装という面でも多くの社会貢献を果たしてこられており，上記以外にも100を超える様々な国・地方自治体の委員を歴任されています。そのすべてを列記することはできませんが，厚生労働省社会的養護のあり方に関する検討委員会，文部科学省生徒指導提要執筆委員会，京都府子どもの貧困対策推進委員会，京都府・京都市・大阪府・和歌山県の各教育委員会等の委員・スーパーバイザー等の役職を受任されてこられたことを紹介しておきます。

山本耕平先生は大学で社会福祉学を学び，卒業後は短期大学の講師職のかたわら，障害児者の発達保障や就労保障を目指した実践と運動に参加されました。その後，保健所の精神科ソーシャルワーカーとして，精神保健ニーズを有する人々や災害の被害者・ご遺族等と関わり，当事者の生活や運動に寄り添った研究・実践活動を続けてこられました。本学においては，2003年度より非常勤講師として精神保健福祉士養成課程の専門科目を担当され，2007年度に「福祉臨床論」「精神障害者リハビリテーション論」を主担当科目とする専任教員として本学部に着任されています。その後は学部の「精神保健福祉論」「福祉臨床論」等の科目や，社会学研究科の院生指導などをご担当いただいてきました。山本先生とともにフィールドワークに参加して学んだ数多くの卒業生・修了生が，臨床研究者や社会福祉の実践者として社会の様々な現場で高い評価を受けています。

学内役職については，2014～16年度に本学の評議員を歴任されたほか，同じく2014～16年度に産業社会学部社会福祉実習指導室長をお務めいただきました。これまで本学部の社会福祉士課程および精神保健福祉士養成課程（2012年度入学者以降廃止）の課程運営に中心的に関わってこられ，これらの資格課程運営にとって，なくてはならない存在でした。

研究面では，特に青年期の精神保健福祉研究をご専門とされています。社会的ひきこもりの若者たちの生存と発達を支える社会的支援策や実践の検討を中心に，先進的な実践体との共同研究に注力してこられました。近年では韓国の研究者・実践者との研究交流や共同研究も手がけ，日韓両国での研究発表を行っておられます。加えて，内閣府の若者に関する調査分析委員や，滋賀県や滋賀県高島市等の子ども・若者育成支援政策のスーパーバイザーなど，国・地方自治体の政策立案・実施への参与を通じて，ご研究の成果を社会に還元することにも尽力されてきました。そして，JYC フォーラム共同代表として，若者支援者の育成と支援団体の連携推進に貢献してこられたことにも，ここで触れておきたいと思います。

野田先生，山本先生はともに，人間福祉専攻の礎を築いてこられた方であり，そのお二人が同時期にご退職を迎えられたことは，ひとつの節目のようにも感じられます。人間福祉専攻のみならず，本学部の教学内容や教育実践はお二人の教育・研究に関わる姿勢から大きな影響を受けてきたと思います。それは，現代社会における社会的課題への鋭い問題意識に立脚し，問題の当事者や支援者・実践者の目線に立ちつつも専門家・研究者として客観的な分析を行いながら，研究の諸成果を社会に還元していく，ということです。今後の本学部におけるアクティブ・ラーニングの本質とは何かを考える際，お二人が示してこられた研究や教育への向き合い方には，多くの教訓が込められています。私たちは，その姿勢と見識を継承し，それをさらに発展させていきたいと考えています。長年本当にありがとうございました。最後になりましたが，野田正人先生と山本耕平先生のますますのご活躍とご健康，ご多幸を心より祈念申し上げます。

2020年６月